

令和 8 年度 教育実習実施要項

1 実習申込要件

- (1) 原則として、本校出身者であること。
- (2) 教育実習を行うための必要科目の単位を修得済み（または履修中）であること。
- (3) 専攻科目（または専攻科目と関連の深い科目）が、本校開講科目の中にあること。
- (4) 一党一派に偏向した政治的、宗教的な発言・活動を行わないこと。

2 申込受付期間

令和 7 年 7 月 1 日(火)～9 月 3 0 日(火)（実習年度の前年の 7 月から 9 月まで 3 ヶ月間）

3 受付手続

- (1) 実習を希望する本人が別紙「教育実習申込書」に必要事項を記入し、自署のうえ来校して提出する。
- (2) 宛名（在籍大学の教育実習担当課宛て）を記入した定型封筒 2 通（110 円分の切手を貼付）を提出する。
- (3) 実習に臨む決意や目標などを具体的に記した作文（原稿用紙 3 枚程度）を提出する。

4 連絡事項

- (1) 実施時期は、令和 8 年 6 月 8 日[月]～1 9 日[金]を予定している。変更があれば後日連絡する。ただし、3 週間（令和 8 年 6 月 8 日[月]～6 月 2 6 日[金]）の実習期間が必要な場合は申込の際に申し出る。
- (2) 実習生の勤務時間は、教員の勤務時間に準じ、午後 1 2 時 5 0 分～午後 9 時 2 0 分とする。ただし、曜日により特に指示した場合は午前 1 0 時 3 5 分～午後 7 時 3 5 分とする。
- (3) 実習生は教科指導だけではなく、LHR・総合的な探究の時間「フロンティア」・SHR・掃除・部活動、その他の学校生活全般についても実習する。
- (4) 実習生の欠勤・遅刻・早退は原則として認めない。病気等のやむを得ない場合は、できる限り早めに学校に連絡し、許可を得る。
- (5) 教科指導に関して、実習期間中の前半は、主として、指導教員およびその他の教員の授業を参観研究する。後半には、主として授業実習を行う。授業実習を数時間以上実施したあとで、研究授業（1 時間）を実施し、指導教員および参観教員の指導講評を受ける。
- (6) 実習に必要な教科書は、教育実習係や指導教員に相談したうえで、原則として実習生の負担で購入する。その他の教材に関しては、指導教員が貸与等の便宜を図る。
- (7) 実習期間中に本校の備品・消耗品が必要な際は、指導教員の指示に従う。コピー機・印刷機・パソコン等の使用に際しては、指導教員の指導、許可を得る。

(8) 実習生の控え室は職員室とする。

(9) 実習生は昼食には控え室を使用する。夕食は給食とし、欠食の有無に拘わらず、実習最終日までに下記の金額を事務室へ支払う。

(金額は今年度のもの。来年度は変更となる場合あり)

※徴収額 2週間の場合：3,400円(一食340円×10日)

(予定) 3週間の場合：5,100円(一食340円×15日)

5 備考

(1) 実習申込者が多数の場合は、教科ごとに適正な人数になるよう選抜することがある。

(2) 実習生受け入れの「内諾書」は、令和7年10月末までに在籍大学宛て送付する。

(3) 実習生受け入れの可否については、岐阜県教育委員会による調整の後、令和8年3月末までに「教育実習生受け入れ承認通知書」により、在籍大学へ正式通知する。

(4) 在籍大学の教育実習指導教官から直接、授業の指導講評が受けられるように、教育実習期間内に本校を訪問していただく旨を要請する。

(5) 実習開始日の前に、実習生に対するオリエンテーションを実施する。

6 日程(2週間希望の場合の予定)

令和8年5月末～6月初め

教育実習生オリエンテーション(小会議室)

8日(月)

教育実習開始、職員連絡会にて挨拶・自己紹介
(控え室：職員室)

※実習期間中に授業見学や研究授業等を行う

17日(水)

職員連絡会にて謝辞

19日(金)

教育実習反省会

※日程は変更する可能性あり。

教育実習申込書

ふりがな 氏名		卒業年月 年 3 月	卒業年のクラス担任
所属大学	大学 学部 学科		
実習希望 教科		実習希望科目 ※ 1	
現住所			
保護者氏名			
自 宅 住 所 ※2	〒 - Tel () -		
備考	部活動		教員採用試験の受験予定※3
	第 1 希 望 第 2 希 望 部 部 〈高校在学時に所属した部活動〉 部		小中学校 高等学校 特別支援学校
※1 地歴・公民または理科または芸術を希望する場合は、実習科目も記入すること。 ※2 自宅住所が現住所と同じ場合は、同上と記入すること。 ※3 教員採用試験の受験予定者は受験する校種を○で囲むこと。			